

京都府と 連携・協力包括協定を締結

法人事務室

12月1日、京都府庁において、山田啓二知事をはじめ同府関係者、水谷誠理事長、村田晃嗣大学長、加賀裕郎女子大学長ほか学校法人同志社関係者出席のもと、京都府と学校法人同志社との連携・協力に関する包括協定調印式が執行された。学校法人同志社と地方自治体との連携・協力包括協定締結は8つ目となる。

協定調印式では、山田知事から「京都府と学校法人との協定は初めてで、幼稚園から大学まで14の学校を擁する総合学園としての強みを活かし、知的・人的・物的資源の交流や地域活性化及び地域創生の推進に向けて協力を図りたい」との挨拶に続いて、水谷理事長から「同志社創立140周年の記念年に、創立時からつながりの深い京都府との連携は非常に光栄なことであり有意義である。人的・知的財産を中心に、各学校の特性を活かした連携を推し進めていきたい」との挨拶があった。

協定では協力項目として、①学術・研究交流②文化・スポーツの交流③国際交流④地域振興⑤福祉のまちづくり⑥地球環境への対応⑦地域産業を担う人材の育成・地

り込んでいる。京都府とは、個別の連携はすでに行われているが、このたびの協定締結を機に、連携協力をより一層推進していくことが期待される。



薬学部開設10周年 記念講演会

女子大学薬学部・薬学研究科事務室

2015年10月10日(土)、京田辺キャンパスの知徳館C283教室において、薬学部開設10周年記念講演会を開催いたしました。

薬学部は、2005年に4年制課程の薬学部として開設し、学校教育法および薬剤師法の改正にもない翌2006年には6年制課程となりました。この10年間で、約650名の卒業生が、薬剤師など様々な職種で社会貢献しております。その薬学部の開設10周年を記念して「チーム医療における薬剤師への期待」というテーマで講演会を行いました。

木津良一薬学部長の開会挨拶、開設にご尽力いただきました岡部進元特別任用教授による挨拶の後



に、4名の演者による講演が行われました。最後には、森田邦彦初代薬学部長による閉会挨拶で終了しました。

なお、演題および演者は、左記のとおりです。

「これからのチーム医療と協働薬物治療管理の可能性」土手賢史先生(京都桂病院薬剤科副主任)

「地域包括ケアシステムでの薬剤師の活躍」吉岡聖子先生(スギ薬局医療営業2部営業推進課課長)

「地域緩和ケアの充実を図るために、薬剤師に期待すること」訪問看護の立場から」宇野さつき先生(新国内科医院看護師長・がん看護専門看護師)

「市中病院でのチーム医療の実



際「医師と薬剤師の協働で抗がん剤の有効性を引き出す」今村博司先生(市立豊中病院医務局次長・外科部長・消化器外科部長・がん診療統括センター長)

参加者は、薬学部の学生・卒業生・教員にとどまらず、近隣の病院や薬局の薬剤師の先生方にもご参加いただき、活発な質疑応答がありました。

また、今年の4月に開設した看護学部の教員や学生も参加し、最後には看護学部の教員から、今後のチーム医療教育についての意見が出され、薬学部と看護学部の結びつきが感じられる記念講演会となりました。



天体観望会

女子中学校・高等学校教諭 きたのこうじ 北野 功治

高校3年生の選択授業である「地学」では、天文の学習を行う。今年度までは黎明館のプラネタリウムを用いて、星空の様子を学習することができた。モニターを通して映像を見ることが可能であるが、実際の夜空の星を望遠鏡で観察する意義は大きい。従来から毎年天体観望会を計画しており、同志社びわこリトリートセンターや西はりま天文台に宿泊して観望を行った年もある。

今年度は6月に本校希望館屋上で備品の口径20cmの望遠鏡を使用して金星・木星・土星の3つの惑星の観望を計画した。生憎のお天気で実際に惑星を見ることはできなかったが、望遠鏡の仕組みについて学習することができた。

さらに11月には京都産業大学神山天文台にご協力いただき、天体観望会を行うことができた。神山天文台の中道晶香先生にパソコンを用いた星空の3D映像での今夜の星空解説を受けた後、天候は雲



が広がっていたが口径1.3mの荒木望遠鏡を用いて、雲間をぬってガーンレストスターを見せていただくなど観望も楽しめた。雲間から観察することで、雲の影響で星の見える明るさが大きく変わる様子がよくわかった。



同志社女子大学シンポジウム

「輝く女性のこれから —求められる力と学びとは—」

女子大学広報課

2015年10月18日(日)、今出川キャンパス栄光館ファウラーチャペルにて「輝く女性のこれから—求められる力と学びとは—」をテーマにシンポジウムを開催しました。

基調講演には坂東眞理子昭和女子大学学長を講師として迎え、「キヤリア戦略と人生戦略—女性の生き方を考える—」と題してお話しいただきました。坂東氏は、自立し変化に即応する知識や技能を吸収し続けることで女性が輝く未来の実現につながると話されました。

また、学生には大学で学び方を知り、学ぶ習慣をつけて欲しいと述べられました。第二部では、坂東氏、野崎治子堀場製作所理事、加賀裕郎本学学長をパネリストとし、諸井克英本学生活科学部人間生活学科学教授(女性アクティベーションセンター長)による司会のもと、パネルディスカッションを行いました。野崎氏は、女性をとりまく環境が変化し継続的に就労するこ



坂東眞理子氏の基調講演

とが可能な環境が整いつつある現代では、「しなやか、したたか、しぶとく」という要素が大切になると話されました。また、加賀学長は、社会にまだまだ性差のバリアが残る以上、女性をエンパワーする女子大学の役割が重要になると述べました。最後に参加者からの問いかけに登壇者が答える質問コーナーを行い、盛会のうちに終了しました。参加者は約500名でした。



パネル展示の様子



パネルディスカッションの様子

ダンスで応援する 『高校野球100年』

香里中学校・高等学校教諭、ダンス部顧問 ひがしく ぼ あい み
東久保愛美

今年で高校野球が100年という節目の年に一層、若者に甲子園球場で行われる全国高校野球選手権への興味を持ってもらい、高校生が高校生を応援するという高校野球の基本精神を具現化することができないかと企画され、本校ダンス部に「ダンス編」のCM制作への振付けと出演の依頼がありました。

CMは、アップテンポにアレンジされた大会歌「栄冠は君に輝く」のつて、同じ高校生として高校球児を応援したいという思いや、野球の打球や打撃、監督が出すサインのイメージをモチーフにした振付けを考え、高校野球の魅力をどのようにアピールできるか何度も打ち合わせが行われました。

撮影は6月中旬、本校の校内や近くの淀川の堤防などであり、丸2日かかりで計約30シーンを撮影しました。

生徒たちは「仲間や指導者、親といった多くの人たちに応援され、プレーする球児の姿をイメージし

たい」「みんなの熱を一つに、CMから応援する気持ち伝わってほしい」「がんばる球児に力を与えたい」という思いが伝わるよう、誰も妥協せずにかく必死でした。

CMで着用する衣装にもメッセーヂが込められていました。甲子園のベンチ入りは18人で、19番目のメンバーとして応援するという意味から、制服には背番号「19」が。また、「たくさんの人に球場に見に行つてほしい」という思いに、語呂合わせの「19（行く）」をかけて、応援に「19（行く）」という意味も込められていました。

本校ダンス部は、コーチ等の指導や振付けに頼らず、部員の自主性と獨創性を重視した「自分たちにしつつくれないダンス」を日々追及することを大切に活動してきました。

今回このようなチャンスをいただき、日頃の生徒たちが大切にしてきたことが繋がったような気がして、とても幸せな経験になりました。

